

地方独立行政法人那覇市立病院

平成22事業年度の業務実績に関する評価結果

平成23年8月

地方独立行政法人那覇市立病院評価委員会

年度評価の方法

本評価委員会において、地方独立行政法人那覇市立病院の平成22事業年度に係る業務実績に関する評価を行った。

(評価の基本方針)

- (1) 評価は、中期目標・中期計画の達成状況等を踏まえ、法人の業務運営等について多面的な観点から総合的に評価を行い、評価を通じて法人の継続的な質的向上に資するものとする。
- (2) 評価を通じて、法人の中期目標・中期計画の達成に向けた取組状況を市民に分かりやすく示すものとする。

評価は、項目別評価と全体評価を行い、項目別評価では、法人による自己評価をもとに、業務実績に関する法人からのヒヤリング等を通じて、法人による自己評価の妥当性や年度計画に照らし合わせた達成状況を確認した。また全体評価では項目別評価結果等を踏まえつつ、中期計画等の達成状況について総合的な評価を行った。

なお、平成22事業年度の評価にあたっては、昨年度に指摘・要望等を行った項目について、改善状況等を確認した。

地方独立行政法人那覇市立病院平成22事業年度の業務実績に関する評価結果

第1 全体評価

1 評価結果

平成22事業年度の業務実績に関する評価については、「市民に提供するサービスその他の業務の質に関する事項」及び「業務運営の改善及び効率化に関する事項」の2つの大項目評価について、A評価（中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。）が妥当と判断した。また財務内容については、新規の施設基準取得による増収効果により大幅に改善していることを確認した。

2 全体評価に当たって考慮した事項

- (1) 「市民に提供するサービスその他の業務の質に関する事項」の大項目においては、引き続き常時小児科医・内科医を配置した365日24時間救急医療体制を維持してきたこと、地域医療支援病院の名称を取得し地域の医療機関との医療連携を推進するとともに、がん診療をはじめとする地域における中核的急性期病院として医療機能の向上に向けた取り組みが行なわれていることや、新たな取り組みとして5大がんの地域連携パスを県内で初めて運用したことも評価した。市の保健行政との連携では健診センターの稼動により人間ドックや特定健診等の受診者の増加に加えて、

市民の利便性向上のため、試行的に休日の特定健診を実施したことも評価した。今後、休日健診が定着することを期待する。以上の評価を踏まえ A 評価（中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる）とした。

- (2) 「業務運営の改善及び効率化に関する事項」の大項目においては、経営、医療、医療支援の連携機能の改善を図るためベットコントロール室や入院準備センターを設置し機動的な組織運営を行っている。また、経営面では適正な病床稼働率を維持するとともに高度医療機器の更新取得及び効率的な運用による稼働率の向上や収益の改善に向け施設基準の取得に積極的に取り組んでいる。その結果、地域医療支援病院の名称取得等の施設基準の新規取得により入院医療を中心に診療単価の向上につながり 3 億 6 千万円余りの増収効果をあげている。収支についても前年度の 4 億 4 千万円余りを上回る 6 億 9 千万円余りの黒字を達成したことなどから A 評価（中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。）とした。

第 2 大項目評価

1 市民に提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項

(1) 評価結果

A 評価（中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。）

(2) 判断理由

小項目評価結果の集計結果（＜第 2 表小項目評価の集計結果＞参照）では、B 評価（中期目標・中期計画の達成に向けておおむね計画どおり進んでいる。）となるが、下記の【大項目評価に当たり考慮した事項】で示しているように、引き続き常時小児科医を配置した 3 6 5 日 2 4 時間の小児救急をはじめ救急医療体制を維持したことや地域医療の中核病院として機能を担う地域医療支援病院の名称取得、医師や看護師等の人材確保、職員のスキルアップ向上のための専門研修を積極的に進めるなど、診療機能の充実に取り組んでいること。また評価Ⅲ以上の項目が評価対象 3 9 項目中 3 8 項目あったことなどを踏まえ、総合的に評価し、評価 A が妥当であると判断した。

<第1表 大項目の評価方法>

大項目評価は、小項目評価の結果、特記事項の内容等を考慮し、大項目ごとに中期目標・中期計画の達成に向けた進捗状況について、次の5段階により評価する。(地方独立行政法人那覇市立病院の年度評価実施要領3(3))

S: 中期目標・中期計画の達成に向けて特筆すべき進捗状況にある。
(評価委員会が特に認める場合)

A: 中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。
(すべての小項目がⅢ～Ⅴ)

B: 中期目標・中期計画の達成に向けておおむね計画どおり進んでいる。
(小項目についてⅢ～Ⅴの割合が9割以上)

C: 中期目標・中期計画の達成のためにはやや遅れている。
(小項目についてⅢ～Ⅴの割合が9割未満)

D: 中期目標・中期計画の達成のためには重大な改善事項がある。
(評価委員会が特に認める場合)

【大項目評価に当たり考慮した事項】

① 小項目評価がⅣ(計画を上回って実施している)の項目は、次の12件あった。

(注:()は小項目の番号を、[]は評価のウェイトを表す。以下同じ。)

ア 常時小児科医を配置した365日24時間救急医療体制の維持・充実(1)[2]

病院の医師を主体に琉球大学医学部附属病院医師や開業医の支援(主に夜間や休日の診療)を受けて、常時小児科医を配置した小児救急をはじめとした365日24時間の救急医療体制を継続して実施している。

イ 地域医療機関との機能分担と連携強化及び地域医療支援病院の名称取得(8)[2]

地域医療の中核病院として地域の診療所などを後方支援するため、紹介率の向上、施設設備の共同利用の促進、地域医療従事者への研修会の開催、地域連携室の充実を図るとともに、市内の医療機関で唯一地域医療支援病院の名称を取得している。

ウ 医師の人材確保(10)[2]

小児科医、外科医、脳神経外科医、産婦人科医、健診担当医師を各1名採用し医師の人材確保に取り組んでいる。

エ 看護師及び医療技術職員の人材確保(11)[2]

県内の看護師養成学校で就職説明会を開催し看護師の人材確保に取り組み、看護師23名の純増となっている。看護師以外の医療技術者については、理

- 学療法師6名、作業療法士3名、言語聴覚1名の人材を確保している。
- オ 患者の栄養状態の改善を行うための栄養サポートチームの編成（13）
22年8月から医師を含む他職種からなる栄養サポートチーム（NST）を編成し入院患者の栄養状態の改善に取り組んでいる。
- カ 看護師の専門研修の実施（14）
医師、看護師等の多職種で構成されている呼吸器ケアチームにおける看護師のスキルアップを図るため、「集中ケア認定看護師」研修に派遣している。
- キ 薬剤師の専門研修の実施（15）
緩和ケアの向上及び診療の充実を図るため薬剤師を専門研修に派遣しスキルの向上に取り組んでいる。
- ク クリニカルパス適用患者の増（16）
疾患別に退院までの治療内容を標準化したクリニカルパス適用患者について、年度計画で定めた適用患者数を達成している。
- ケ 院内感染対策の徹底（18）
院内感染対策の充実・徹底を図るため、感染防止対策室を設置し各病棟における感染防止の対策状況の確認及び防止対策の改善指導を行い院内感染の防止に取り組んでいる。
- コ インフォームドコンセントの徹底（21）
患者と家族の信頼と納得に基づいた診療（インフォームドコンセント）を行なうため入院準備センターを設置しインフォームドコンセントの徹底に取り組んでいる。
- サ 検査機器の稼働率の向上（29）
検査体制の見直しにより高度医療機器の稼働率が向上し検査件数の増加につながっている。結果として検査待ち時間も短縮されている。
- シ 健診事業の拡大（36）
平成22年6月の健診センターの稼働に伴い人間ドックや特定健診等の健康診断件数が増加している。

<第2表 小項目評価の集計結果>

ウエイトを考慮した45項目のうち43項目が小項目評価のⅢ～Ⅴに該当しており、割合は43/45と9割以上を占めることから、小項目評価の集計では、B評価（中期目標・中期計画の達成に向けておおむね計画どおり進んでいる）となる。

分野	評価対象 項目数	I (計画を 大幅に下 回っている)	II (計画を 十分に実 施できて ない)	III (計画を 順調に実 施してい る)	IV (計画を 上回って 実施して いる)	V (計画を 大幅に上 回って実 施してい る)
診療機能 の充実	26 (6)		1 (1)	15 (1)	10 (4)	
患者サー ビスの向 上	9			8	1	
市の医療 施策推進 における 役割発揮	4			3	1	
合 計	39		1	26	12	
ウエイト 考慮後の 合 計	45		2	27	16	

注：() は、ウエイト付けした項目数である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

ア 救急搬送の断り件数は記述されているが、今後は内容ごとに記述してもらいたい。(2)

イ 高度医療を担う地域の中核的急性期病院として脳卒中センターの開設に向け引き続き努力してもらいたい。(4)

ウ 県内で初めて5大がんの地域連携パスの運用を開始したのは評価でき、普及に向け努力してもらいたい。(6)

エ 病院の診療機能を担う医師の人材確保は困難な中で、小児科医、外科医、脳神経外科医、産婦人科医、健診担当医を確保したのは評価できる。(10)

オ 医師以外の医療スタッフをさらにスキルアップするため、多くの職員が受けられるよう研修機会を確保してもらいたい。(14)(15)

カ クリニカルパスの実績の記述に当たっては、パスの適用件数以外に疾患別の適用件数も今後は示してもらいたい。(16)

キ 入院準備センターでインフォームドコンセントが十分になされているか患者

- 等に再確認しており、説明に当っては主治医と看護師が協力して行うのが望ましい。(21)
- ク 待ち時間対策について実態調査を行なうなど改善に向けた取り組みが行なわれており、継続して取り組むことを要望する。(27)
- ケ 手術室の効率的な運用は手術待ち患者の待機日数の短縮につながるため、コンサルタント業者の調査結果を踏まえ、改善に向けた取り組みを要望する。(28)
- コ 健診センターでクレジットカードによる医療費の支払いを導入している。利便性向上のため導入範囲を広げるとともにコンビニでの支払いについても検討してもらいたい。(33)
- サ 積極的にボランティア活動を受け入れている。継続してボランティア活動ができるよう休憩室等の設置や研修と個人の特技を活かして患者を直接援助するボランティアの受け入れも検討してもらいたい。(34)
- シ 委託職員を含む病院職員への接遇研修を実施している。テナント関係者も研修対象者とするにより病院全体の接遇マナー向上につながるので、検討してもらいたい。(35)
- ス 大規模災害等において医療スタッフを現地に派遣して医療救護活動を実施することは、公的病院の使命の一部であり引き続き災害医療派遣チーム(DMAT)の設置を要望する。(37)
- セ 市民への医療情報は医療講演会、情報誌、ホームページ等で提供・発信している。市民への周知や理解度が深まるよう発信内容等を工夫してもらいたい。(39)

2 業務運営の改善及び効率化に関する事項

(1) 評価結果

A評価(中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる。)

(2) 判断理由

小項目評価結果の集計結果(<第3表小項目評価の集計結果>参照)で、A評価となる。下記の【大項目評価に当たり考慮した事項】で示しているように、適正な病床稼働率を維持するとともに、高度医療機器の効率的な運用による稼働率の向上や収益の改善に向け施設基準の取得に積極的に取り組んでいる。その結果、地域医療支援病院の名称取得等の施設基準の新規取得により入院医療を中心に診療単価の向上につながり3億6千万円余りの増収効果をあげ、全体の収支で6億9千万円余りの黒字を達成している。

【大項目評価に当たり考慮した事項】

① 小項目評価がⅤ（計画を大幅に上回って実施している）の項目は、次の1件あった。

ア 新規の施設基準取得等による増収対策（52ア）〔2〕

適正な病床稼働率の維持及び地域医療支援病院の名称取得等の施設基準の積極的な取得により入院、外来診療単価とも目標額をかなり上回る実績を達成し6億9千万円余りの黒字確保に貢献している。

② 小項目評価がⅣ（計画を上回って実施している）の項目は、次の1件あった。

ア 後発医薬品の採用促進（54ア）

患者負担の軽減、薬品費の費用節減対策として、後発医薬品の採用に取り組み目標としている数量ベースの使用率を達成している。

<第3表 小項目評価の集計結果>

ウェイトを考慮した20項目のうち20項目全てが小項目評価のⅢ以上に該当していることから、小項目評価の集計では、A評価（中期目標・中期計画の達成に向けて計画どおり進んでいる）となる。

分野	評価対象 項目数	I（計画を 大幅に下 回っている）	II（計画を 十分に実 施できて ない）	III（計画を 順調に実 施している）	IV（計画を 上回って 実施して いる）	V（計画を 大幅に上 回って実 施している）
法人としての運営 管理体制の確立	3			3		
効率的・効果的な業務運営	13（4）			11（3）	1	1（1）
合計	16			14	1	1
ウェイト 考慮後の 合計	20			17	1	2

注：（ ）は、ウェイト付けした項目数である。

(3) 評価に当たっての意見、指摘等

ア 経営管理機能強化のため診療科別の収支分析を外部の監査法人に委託しており、分

析結果を今後の経営方針に活用してもらいたい。(4 1)

イ 診療報酬の増収対策として、地域医療支援病院の名称取得をはじめ新規の施設基準を取得した結果、入院医療を中心に診療単価の向上につながり3億6千万円余りの増収効果をあげたことは、大いに評価できる。(5 2)

ウ 後発医薬品の採用については年度計画の目標を達成している。今後は、全国比較において具体的な数値を示してもらいたい。(5 4)